

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きっずデイゆめ		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 11日		令和7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 11日		令和7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「ただいま」と安心して来れる「第二のお家」になっています。集団プログラムに関しては五領域を満たす内容でおこなっており、個別課題ではご利用者様に合わせた内容を提示している。	スモールステップに設定し成功体験をたくさん経験してもらい、自信をつけ自己肯定感を感じて頂いています。個別課題では全職員が把握出来るように個別ファイルにプリントを用意し、記録を残している。	職員が声掛けや見守りをし、成功体験を今以上に経験してもらえるようにする。
2	外出レクやお買い物練習で公共交通機関を使ってバスや電車の乗り方、社会のルールを体験し、自立に備えていく。	公共交通機関のクイズをしながらルールをわかりやすく覚えてもらう。事業所に帰ってから全員で振り返りをする。出来たことや楽しかったことなど。	高学年のご利用者様は計画から参加してもらい、職員と一緒に計画や時間割りなどを立ててもらえるように支援をしていく。
3	ハロウィンの仮装で町役場や商店に行きお菓子をもらったり、他事業所と運動会やサッカー大会に参加している。	ご利用者様がその日のために頑張って作った制作物を持って(杖やお菓子入れ)お菓子を頂きます。地域の方に挨拶をすると皆様声を掛けてくれるので参加者も楽しそうに歩いている。運動会やサッカー大会では事業所全員で一喜一憂して楽しんでいる。	町の行事に参加したり他事業所との交流をもっと増やしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小学生から高校生まで幅広いご利用者様がご利用されているので、集団プログラムの内容設定が難しい。	チームや学年でプログラムの内容や難易度を変えているが、他にやりたい事がある様子でプログラムに参加しないや集中出来ず離れて行ってしまふ事がある。又、内容によっては職員が足りていないなと思える時がある。	入所時間に合わせて集団プログラムを分けたり学年で分けたりと、その日のご利用児童様の体調をみて、臨機応変に対応する必要がある。
2	送迎時間が重なり、急なご利用の対応が難しいときがある。(お迎えに行けない)	送迎車3台がフル稼働しており、職員も添乗員で乗っているためお迎えに行けない日がある。	保護者様にお迎えに行けない理由を説明し、お迎え時間を変更したり、可能であれば保護者様に送ってもらう。
3	事業所の玄関入り口が階段のため車椅子での移動が難しい。	建物的にスロープにすることが難しい。	現在は車椅子のご利用者様はいないのですが、以前は1階の指導訓練室から入室して頂いていました。